



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう) 第4号

学校教育目標 「たくましい心と体を持ち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬



ゴールデンウィークの5連休が終わり、今日からまた学校生活が再開となりました。2年続けて“ステイホーム”のGWとなり楽しきは半減だったかもしれませんが、4月の疲れを癒やし、これからに向けて力を蓄えることができたならば、それはそれで、子どもたちにとっては意味のある5日間だったのではないかと思います。

さて、慌ただしかった4月とは違って、5月はいろいろなことが軌道に乗り始め充実できる時です。その一方で、4月の頑張りすぎからGWを境に脱力感や気疲れ、焦りなどにとられやすいのもこの時期の特徴と言われています。

学校でもご家庭でも子どもたちのちょっとした変化を見逃さず、不安や困りごとに寄り添いながら子どもたちの成長を支援していくことができますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。



爽やかな“センパイ風”を吹かせて部活動始動！

放課後になると、緑や赤に混じって青色の体育着が躍動しています。5月7日には1年生も部活動の正式登録となり、全学年揃っての部総会が開かれるとあって、部活動見学・部活動体験が大詰めを迎えています。校長室掃除に来てくれる二人の1年生にも部活動のことを尋ねてみると、一人は吹奏楽部に、もう一人はソフトテニス部に入ろうと思っていると教えてくれました。その表情からは、部活動が本格的に始まることを心待ちにしていることが伝わってきました。

一方、2・3年生にとっては“センパイ”を最も実感できるのが、この部活動見学・部活動体験の期間ではないかと思います。1年生に対して優しく、丁寧に手ほどきをする2・3年生の姿があらこちらで見られ、当の本人たちも「“センパイ”もまんざらではない！」という心地よい思いを抱いたのではないのでしょうか。始業式の決意発表で、2年生の功刀君は「今年は初めて自分たちに後輩ができるので、部活や集会などで、この学校の先輩はすごいところを見せたい」と、また、3年生の河合君は「後輩から尊敬される立派な先輩になれるよう、部活動では部長として1・2年生をまとめていきたい」と述べていました。その決意を現実のものにしていく部活動がいよいよ始まり、子どもたちの活躍がまた楽しみに思えてきました。



授業+自主学習(家庭学習)の充実で確かな学力を! ~ノートづくりの工夫を通して~

担任の先生方からいただく学級通信の中に、偶然ではありますが、「自主学習(家庭学習)」のことを取り上げているものが二つありました。一つは2年1組の学級通信、もう一つは1年1組のそれです。三井先生はドイツの心理学者エビングハウス氏の“忘却曲線”について触れながら、繰り返し繰り返し何度もやる「反復学習」の大切さを説いています。一方、小西先生は自主学習の取り組みにおいては教科書やノートの丸写しにならないよう「自分で考える」ことが大切だと言います。二人に限らずどの先生からも、教科の授業や学級指導を通して、自主学習ノートによる家庭学習の定着、習慣化については何らかの指導を受けているところですが、学んだことを確かな力として身につけるためには、授業と自主学習(家庭学習)とをつなぐ学習のあり方が大切になってきます。

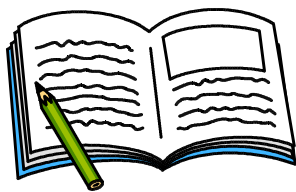
その一つが、授業ノートの取り方です。これは、小西先生の言う「自分で考える」ことの大切さにもつながることだと思うのですが、皆さんが授業中ノートをとるときのことをちょっと思い出してみてください。次のどちらになるでしょうか。

①板書内容を忠実に書き取る。

②板書内容に「疑問?」、「ここは重要!」などの一言や独自のイラスト、図、記号などを書き加える。

おそらくほとんどの人は①だと思います。最も基本となるノートの取り方ですし、これが家に帰ってからの自主学習のベースとなるわけですので疎かにしてはいけません。しかし、受動的であることは否めません。それに対して②はどうでしょうか。とても能動的で、授業におけるその場、その時をとらえて自問自答したり、試行錯誤を繰り返したりしていることがわかります。その過程をイラストや文字などを使って表記・表現することで記憶が長期化され、さらには学習内容に“つながり”が生まれてくるのが、ある大学の先生による調査研究でわかってきました。現に、②のようなノートの取り方をする学生にはテストの高得点者が多かったという結果も出ているそうです。

授業中にそういった書き込みをするのは難しくても、自主学習(家庭学習)でその日の復習をする折にこの方法を取り入れるのも一つです。授業の時にはわかっていたつもりでも「あれ?」と思うようなところが出てくるかもしれません。そんな時、自分で教科書を使って調べ直しノートに書き加える



ることだってできますし、「ここは、明日先生に再確認!」と記しておいて質問することもできます。ちょっとした工夫をすることが学習への興味関心を高めたり、「点」を「線」に変えるきっかけになればと思っています。

学校開放日へのご参加ありがとうございました! 多くの保護者の皆様に足を運んでいただき、子どもたちのみならず私たち職員にとっても大きな励みとなりました。感想やお気づきのこと等ございましたら、お寄せください。今後ともよろしく願いいたします。



**女子バスケットボール部
市選手権大会優勝おめでとう!**

